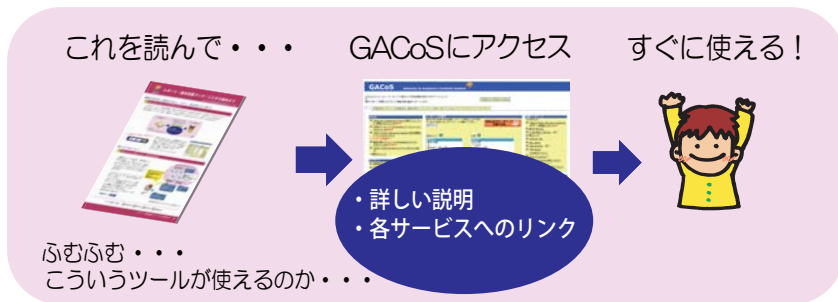




●東京大学の学生・教職員のみなさんへ：『レポート・論文支援ブック』の使い方

東大ではどんなサービスが利用できるの？

この冊子には、レポート・論文を書く際に、東京大学で利用できるサービスをまとめてあります。これを読んで、使いたいサービスや詳しく知りたいことが見つかった方は、まずはポータルサイト「GACoS」にアクセス！そこには、この冊子の「本文」にあたる詳しい説明や各種サービスへのリンクがあり、実際のサービス利用をスムーズに始められるようになっています。ぜひご活用ください。



この冊子の「本文」はWebで！



「GACoS」(ガコス)とは・・・学術情報を探す入口となるサイト。東京大学で利用できる学術的な検索ツールを探す機能や、学外アクセスサービス等へのリンク、資料の探し方や文献管理ツールの講習会のテキスト・スケジュールを掲載。このガイドブックの「本文」にあたるさらに詳しい説明も「GACoS」に掲載し、随時更新していきます。

⇒【学内・学外 OK】

<http://www.dlitc.u-tokyo.ac.jp/gacos/index.html>

レポート・論文支援ブック：ここから始めよう



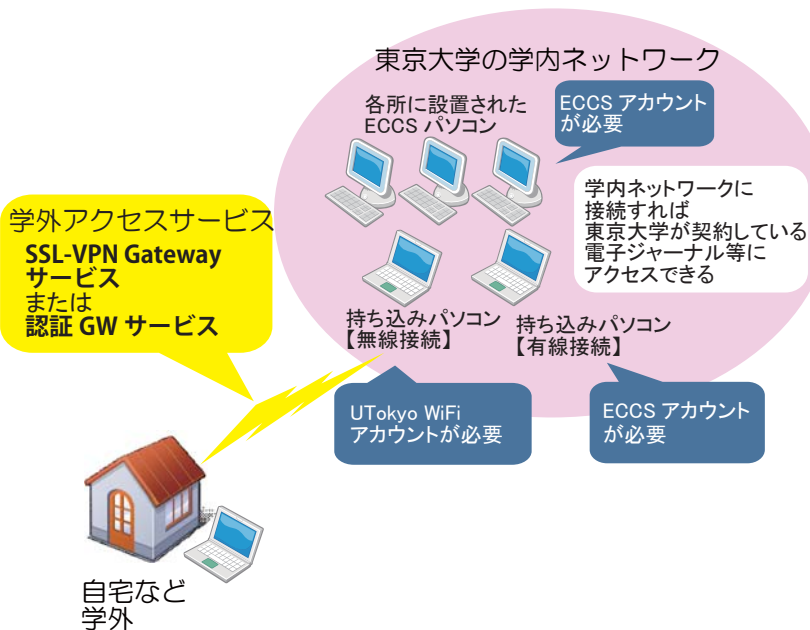
●これだけは知っておこう！

東大でパソコンを使うには？

図書館などキャンパス内の各所に、情報基盤センター・教育用計算機システム「ECCS」(イーシーシーエス)のパソコンが設置されており、東京大学の学生・教職員であればどなたでも使えます。ECCSのパソコンを利用したり、自分のパソコンを持ち込んでECCSのネットワークに有線接続するには、ECCSアカウントを取得する必要があります。

学内のネットワークにつながったパソコンからは、大学が契約している電子ジャーナル(電子版の学術雑誌)等にアクセスできます。

自分のパソコンを持ち込んで学内のネットワークに無線接続したい方は、「UTokyo WiFi」を利用できます。UTokyo WiFiアカウントの取得が必要です。(※部局ごとのパソコン・ネットワークの利用については各部局の担当者にご確認ください。)



詳しくは **GACoS**

図1: 東京大学のパソコン・ネットワークの利用について

自宅 / 出張先などからデータベースや電子ジャーナルを使うには？

東京大学の学生・教職員は、以下のいずれかの認証サービスにより、学内限定のデータベース・電子ジャーナルを、学外からも利用することができます。

- ・「SSL-VPN Gateway サービス」(学生向けのサービス)
- ・「認証 GW サービス」(教職員向けのサービス。サービスの事前手続きが必要です。)

詳しくは **GACoS**

図書館を使いこなそう！

東京大学には、総合図書館・駒場図書館・柏図書館のほか、各学部・研究科や研究所に図書館・室があり、その全体を「附属図書館」と呼んでいます。

図書館を利用するには、まずは「利用者登録」が必要です。学生証(職員証)を持って所属学部・研究科の図書館で手続きをしてください。(教養学部1・2年生、および学務システム UTAS にメールアドレスを登録済みの3年生以上は手続き不要。)

利用者登録すると、学生証(職員証)で東京大学のすべての図書館・室に入ることができます。貸出を行っている図書館・室では本や雑誌を借りられます。

図書館・室の蔵書は「東京大学 OPAC (オーバック)」で検索できます。さらに「MyOPAC」にログインすると、Web から本の予約や取り寄せ、借りている本の貸出期間の延長、本の購入リクエストなどができます。

図書館サービスについてわからないことは、所属学部の図書館カウンターや、東京大学 OPAC 上の「ASK サービス」でお気軽に図書館職員にお尋ねください。

詳しくは **GACoS**

図2: 図書館を利用するには

図書館で「利用者登録」

学生証(職員証)を持って所属学部・研究科の図書館へ
(教養学部1・2年生は手続き不要。)
(学務システム UTAS にメールアドレスを登録済みの3年生以上も手続き不要。)

★コピー取寄せ等のサービス(有料)を利用するには
「MyOPAC文献取寄せサービス利用申請書」を提出
(⇒p.6【資料を入手するには】の項目参照)



MyOPAC に「ログイン」

(MyOPAC でできること)
・本の予約・取り寄せ、コピー取寄せ、PDF 閲覧サービスの利用
・予約・貸出状況の確認、貸出期間の延長
・本の購入リクエスト
など



コラム

図書館と著作権

図書館の資料をコピーするためのコピー機が設置されている図書館・室があります。図書館の資料は著作権法第31条に基づき、一人一部一部分のみコピーが許されています。

● さあ資料を集めよう

先行研究の調べ方

レポートや論文を書くための先行研究調査や、研究動向をつかむための資料として、学術雑誌、図書、学位論文、新聞記事、統計、会議録などの学術情報があります。資料の種類や研究分野、目的に応じて検索ツール（データベース）が作られているので、これを使えば大量の情報の中から必要な情報を効率よく探し出せて大変便利です。

ただし、データベースは万能ではありません。ほかにも「論文の末尾にある参考文献リストから探す」、「図書館の書棚を眺める」、「雑誌の目次を通覧する」などの手段があり、それぞれに、データベースにはないメリットがあります。

また、学術情報は電子化が進んでいますが、紙媒体でしか存在しない情報もあります。Webで入手できないものの中に自分に とって必要な情報があるかもしれないという可能性も認識しておく必要があります。

詳しくは **GACoS**



授業で指定された資料を探すには？ 参考文献リストの見かた

先生から配布された参考文献リストや、本・論文の末尾の参考文献リストを見て、そこに載っている資料を入手したいとき、「どうやって探せばいいの？」と困ったことはありませんか。

リストの見かたのポイントがわかれば、資料を探しやすくなります。

以下に一例を挙げます。リストの記述スタイルは研究分野や雑誌によってさまざまです。

<雑誌論文> 雑誌論文の場合は「巻（号）」の表記があります。（巻のみ、号のみの場合もあります。）

Today Kensaku. The impact of search skills for academic articles : comparing the students who does not know GACoS and who knows GACoS. Journal of UTokyo Academic Writing. 2013, 77(5), p.1-7.
(著者名) (論文名) (雑誌名) (出版年) (巻(号)) (ページ)

詳しくは **GACoS**

※この論文はフィクションです。

リストに載っている資料の探し方がよくわからないときは、ひとまず「TREE」を使ってみるのも、ひとつの方法です。

(⇒P.3【とにかく検索してみる】の項目参照)

また、資料探して困ったときは、所属学部の図書館カウンターや、東京大学 OPAC 上の「ASK サービス」でお気軽に図書館職員にお尋ねください。

とにかく検索してみる

本や論文などを検索するツールはたくさんあります。「どのデータベースを使えばいいかわからない」「幅広い情報の中からどんな本や論文があるかを一度に探したい」という場合に便利なのが、「TREE」(ツリー)です。

TREE [UTokyo Resource Explorer] は、シンプルに、ひとつの検索窓から学術情報を検索できるサービスです。データベースの使い分けを意識せずに、紙の資料も電子版も、本も論文も一度に探せます。

TREE は、「Google Scholar」(グーグルスカラー)(*)とは異なり、東京大学 OPAC や、東京大学が契約しているデータベース / 電子ジャーナル等(提供元の協力が得られたもの)が主な検索対象となっているので、東京大学所属者がアクセスしやすい学術情報の範囲で資料を探せるようになっています。

ただし、TREE ですべての情報を探せるわけではありません。日本の新聞記事データベース等、TREE の検索対象に含まれないものもありますので、目的に合った個別のデータベースの使い方をしておくことも必要です。

(*)Google が提供している無料の学術情報検索エンジン。

詳しくは **GACoS**



図 3 : TREE (UTokyo Resource Explorer) とは

自分の目的・分野に合ったツールで検索

「TREE の検索機能では物足りない」「自分の目的・分野に合った個別の検索ツールで詳しく検索しよう」と思ったときに、どんなツールがあるかを知るには、**GACoS** にアクセスしてください。

GACoS には、東京大学で利用できる検索ツールへのリンクを集めてあり、資料タイプ、主題分野、データベース名などから、使いたいデータベースを探せます。

(代表的なデータベースの一例)

- ・東京大学で利用できる電子ジャーナル・電子ブック⇒E-journal & E-book Portal
- ・図書館(学内・学外)で所蔵している紙の雑誌・図書⇒東京大学 OPAC
- ・日本語論文(全分野)⇒CiNii(サイニイ) Articles (医学系)⇒医中誌 Web
- ・英語論文(全分野)⇒Web of Science (医学系)⇒PubMed(パブメド) (心理学系)⇒PsycINFO(サイコインフォ) (工学系)⇒Engineering Village (教育学系)⇒ERIC(エリック) (人文社会科学系)⇒JSTOR(ジェイストア)
- ・日本語新聞記事⇒朝日新聞、毎日新聞、読売新聞の各データベース
- ・英語新聞記事⇒LexisNexis(レクシスネクシス) Academic
- ・辞書・事典⇒JapanKnowledge Lib など

詳しくは **GACoS**

図 4: GACoS でのデータベースの探し方

GACoS で探す

条件を指定してデータベースを探そう
例) 心理学系の論文データベースを探そう

- 資料タイプ: 雑誌論文・雑誌記事
主題: 哲学・心理学
と指定して検索ボタンをクリック
- 検索結果一覧画面が表示されるので、使いたいデータベース名をクリック
- データベースの画面が開く

GACoS で探す

データベース名から探そう
例) 医学系データベースのPubMedなら「P」をクリック

よく使われるデータベースへのクイックリンク


学外からデータベース・電子ジャーナルにアクセスするときの入り口

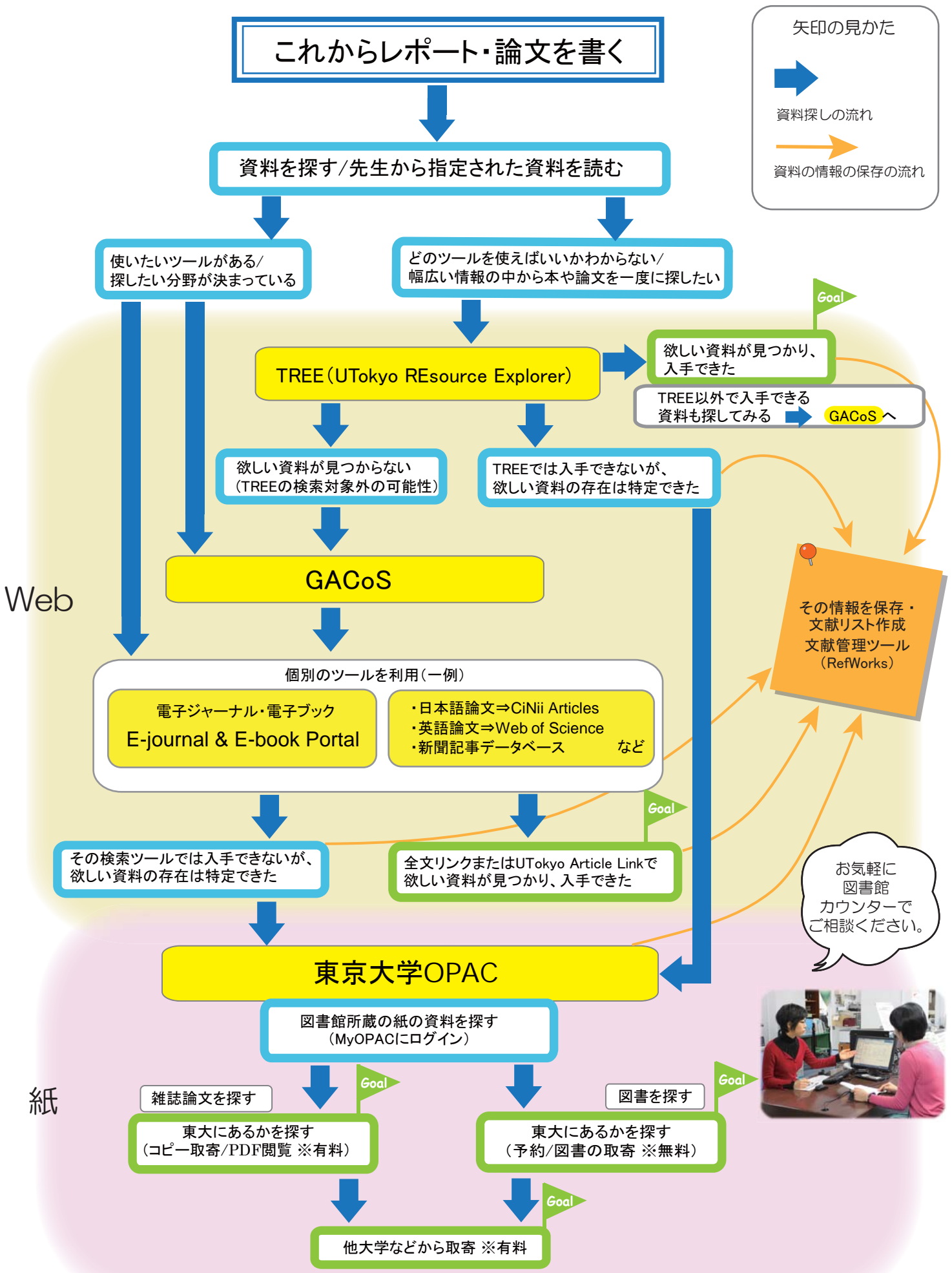
コラム

検索結果を保存・整理するには?

検索をして欲しい資料が見つかったとき、書名や著者名などの情報を、どのように保存していますか?・・・ブックマーク?紙に印刷?パソコンにダウンロード?メール送信? Excel や Word で整理?

東京大学の学生・教職員のみなさんが無料で利用できる便利な「文献管理ツール」も使ってみてください。文献管理ツールを使えば、自分の論文に付ける参考文献リストも自動作成できます。詳しくは、p.8【参考文献リストを作る】の項目を参照してください。

図5：これで迷わない！ 資料探しナビ 



資料を入手するには

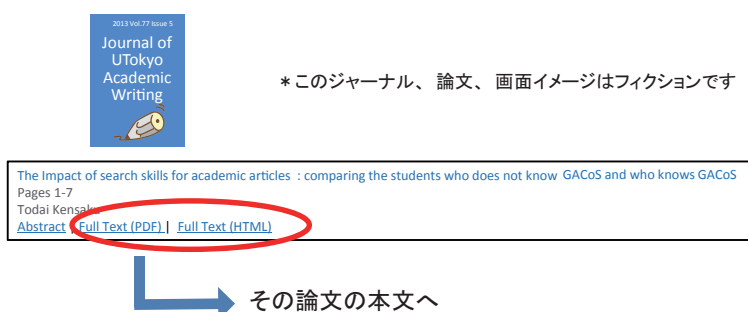
• Web の場合：

電子ジャーナル、電子ブック、論文や新聞記事等の全文を収録したデータベースは、検索結果画面の「Full Text」「PDF」「全文」等のリンクから、そのままパソコンの画面上で本文が閲覧できます。

データベースを検索して、本文へのリンクが無い場合は、「UTokyo Article Link」ボタンをクリックしてください。「UTokyo Article Link」は、その論文を、東京大学で利用できる電子ジャーナルや東京大学 OPAC で探してくれるサービスです。



図 6：Web で見つけた論文の本文を見るには



*このジャーナル、論文、画面イメージはフィクションです



• 紙の場合：

Web から入手できない場合は、東京大学 OPAC で検索して、資料の所在を確認したら、図書館で入手します。所蔵館から資料を取り寄せるサービスもあります。

コピー取寄せ等の有料サービスを利用するには、「MyOPAC 文献取寄せサービス利用申請書」を所属学部の図書館に提出してください。

図 7：紙の資料を入手するには

このマークがついているものは有料サービスです。
 このマークがついているものは MyOPAC ログインが必要です。

欲しい資料はどこにある？	直接行って借りる / コピー	貸出中の本を予約する	本を取り寄せる	コピーを取り寄せる	PDFで閲覧する
所属学部の図書館	OK	OK ☺	不可	不可	OK ☺ ¥
所属学部と同じキャンパスの図書館	OK	OK ☺	不可	不可	OK ☺ ¥
他キャンパスの図書館	OK	OK ☺	OK ☺	OK ☺ ¥	OK ☺ ¥
他大学の図書館	所属学部の図書館に相談	不可	OK ☺ ¥	OK ☺ ¥	不可

詳しくは **GACoS**

図書館によってサービスが異なります。詳しくは所属学部の図書館にお尋ねください。
 ※ 障害があるため文献収集が難しい方は、キャンパスにかかわらず取寄せ可能です。

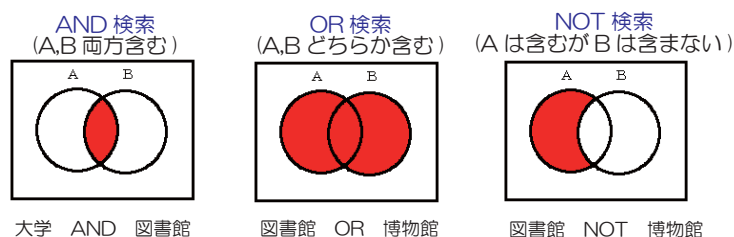
コラム

検索力アップ！もっと効率的に検索するには

検索のコツは、「最初は広く浅く」「それから狭く深く」です。大量の情報の中から欲しい情報を効率よく引き出すには、どんな検索方法があるでしょうか。

思いついたキーワードを入力して終わりではなく、検索結果の絞り込みや並べ替え、AND 検索・OR 検索・NOT 検索、フレーズ検索、完全一致検索、シソーラス検索など、ちょっとした工夫を知っていると、検索結果が変わります。

図 8：キーワード検索のテクニック例（複数の言葉を使うとき）



詳しくは **GACoS**

※実際の検索画面での入力方法は、データベースによって異なります。

●いよいよ執筆！

はじめて論文を書く

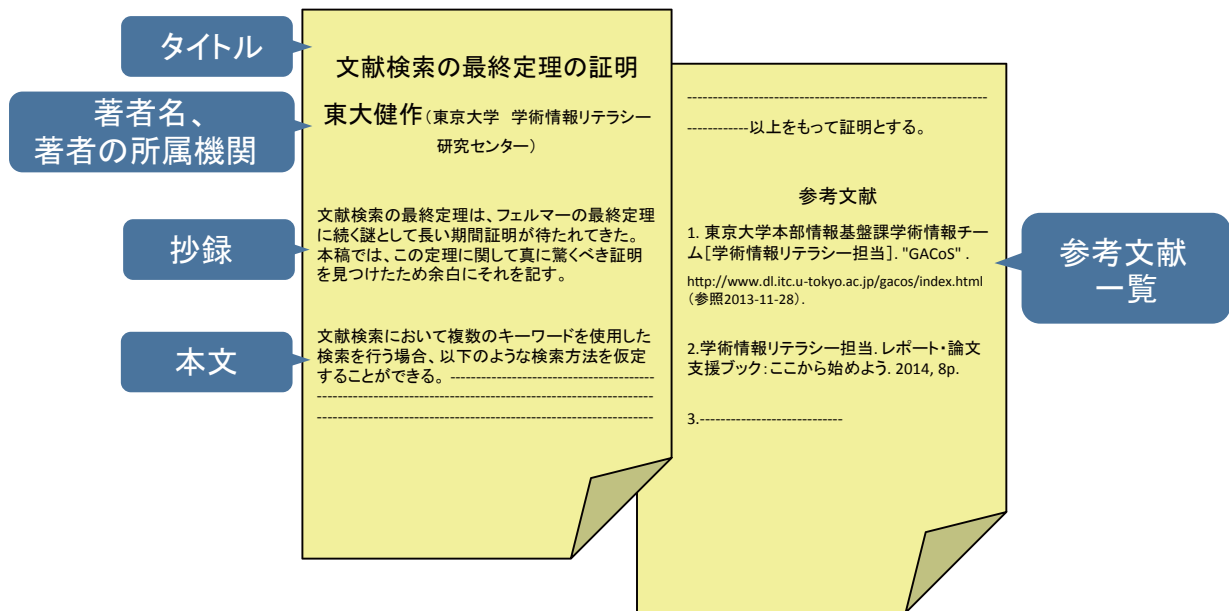
論文とは、基本的に「タイトル、著者名、著者の所属機関」「抄録（本文の要約）」「本文」「参考文献一覧」の要素から構成されて一定の形式を持ち、あるテーマに関する自分の主張を、論理的な根拠を挙げながら、読み手に説明する文章です。

自分の研究を読み手にわかりやすく伝えるために、タイトルや抄録の表現を工夫したり、文章の構成を整理したりすることも重要です。

また、検索で集めた情報を自分の論文の中で使う際は、他の研究成果を剽窃したにならないよう、自分の文章と明確に区別した形で引用し、出典を明示しなければなりません。

詳しくは **GACoS**

図 9：論文の構成 *この論文はフィクションです



コラム★

学内のレポート・論文執筆支援サービス

レポート・論文（特に英語論文）の執筆について、所属の学部・研究科によっては、文章の構成や表現などに関する相談を受け付ける支援サービス等を実施しているところがあります。東京大学の学生・教職員を対象としたセミナーが開催されることもあります。論文執筆に関する授業も開講されています。

また、図書館では、レポート・論文の書き方に関する本を借りることもできます。「東京大学 OPAC」で「論文作法」と入力して検索してみてください。

資料探しや図書館サービスについてわからないことは、所属学部の図書館カウンターや、東京大学 OPAC 上の「ASK サービス」でお気軽に図書館職員にお尋ねください。

論文の探し方や文献管理ツールの使い方などの講習会は、年間を通して各キャンパスで実施しています。授業への出張講習やオーダーメイド講習も無料で承ります。

詳しくは **GACoS**

投稿先を決める

論文をどの学術雑誌に投稿するかを検討する際は、所属の研究室など、同じ分野を研究している先輩や先生のアドバイスを聞いてみると参考になります。

自分で調べる場合に参考のひとつとなるデータベースとして、「JCR (Journal Citation Reports)」という学術雑誌評価ツールがあります。このツールで雑誌の「インパクトファクター」などを調べることができます。

その他に、投稿しようと考えている雑誌が主要なデータベースの収録対象誌になっているかどうかを調べたり、出版社や学会の Web サイトでその雑誌の対象読者層などの情報を見たりすることも、投稿する際の参考になります。

また、論文を多くの読者に読んでもらうためには、論文を広く無料公開する「オープンアクセス」という方法があります。オープンアクセスを採用している雑誌に投稿するほか、「東京大学学術機関リポジトリ (UTokyo Repository)」(*)で論文を公開することでも、論文をオープンアクセスにすることができます。

(*)学術機関リポジトリとは、大学などの学術機関が論文などの研究成果を保存・公開するシステム。

詳しくは **GACoS**

参考文献リストを作る

論文の中での引用箇所の示し方や、参考文献リストの記述方法は、学会や雑誌で指定された書式に従う必要があります。

文献管理ツールを使うと、文献データベースの検索結果等を取り込んで整理し(または手元の資料の情報を直接入力も可能)、参考文献リストを自動作成することができます。東京大学の学生・教職員が無料で使える Web 版の文献管理ツール「RefWorks」(レフワークス)もどうぞご利用ください。

詳しくは **GACoS**

図 10：検索ツールから文献管理ツールへ

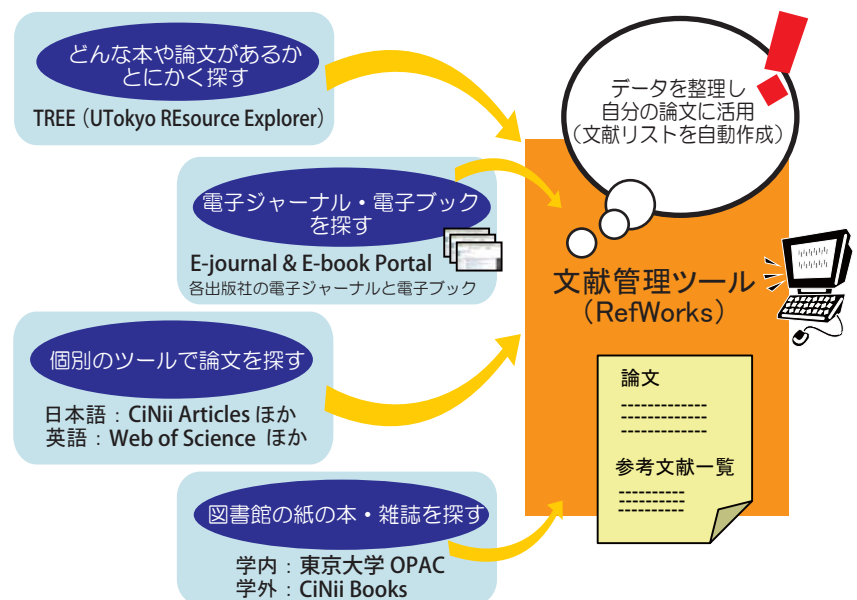
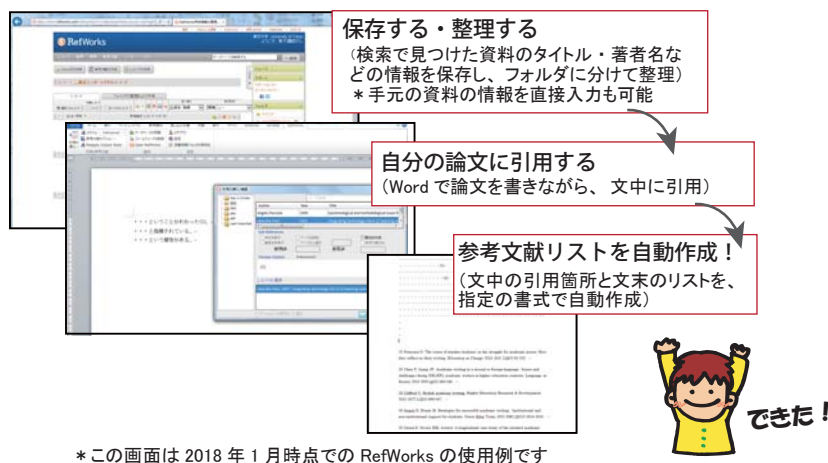


図 11：文献管理ツールでできること



付録

- ・参考文献リストやデータベースに出てくる略語・用語一覧
- ・レポート・論文執筆の際の研究倫理に関する参考 Web サイト一覧
- ・卒業・退職後にも文献検索・文献管理に使えるツール紹介

詳しくは **GACoS**